

## 自治体学会新規事業について

自治体学会役員会において、新規事業の構築をするように指示いただきました。困難な課題で試行錯誤の連続でしたが、ようやく方向性を示すことができるようになったと考えます。これからの自治体学会にとって重要な課題です。会員の皆様に素案をお示しして、ご理解とご意見をいただきたいと思います。また、事業に協力いただける方は事務局まで積極的に申し出ていただきますようお願い申し上げます。

代表運営委員 中島興世

### 新規事業企画素案

テーマ：今なすべき課題は何か～次代につなぐ自治の情熱と知恵

#### 趣旨

財政危機、経済の低迷、少子高齢化など日本は大きな転機の中にある。そこに大震災・原発事故が起きた。日本の復興の道が問われている。

経済成長の時代には拡大するパイの力で地域社会の問題を解決できた。しかし、経済成長にすべてを期待する時代は終わった。従来型の経済成長は有限な地球環境の制約の中で持続可能性はない。日本のみならず世界が新たな問題解決のモデルを求めている。

震災にあっても略奪が起きない日本に世界は驚いた。日本には他者を思いやり、助け合うDNAが今も生き続けている。日本にしかできない、世界を先導する再生の道がある。

これからは地域で真剣に議論して、皆で力を合わせて深刻になっていく地域社会の問題に立ち向かっていくほかはない。苦労はある。しかし、そこに助け合う真の豊かさがある。毅然とした自治の生きざまがある。

日本の再生はGDP世界2位に復活することではない。助け合う自治の精神に支えられた価値と環境負荷の少ない経済が合わさって新しい、世界から尊敬される日本が生まれてくるのではないか。

再生のためには自治の精神を鼓舞しなければならない。だから自治・民主主義に生きようとする自治体学会が真価を発揮する時代を迎えたといえる。

#### 事業案

##### ① 自治体職員志望者の自治の夢と情熱を育む

地方自治を学ぶ学科が多くの大学で設置された。しかし、そこで学生に自治の夢や情熱を育むことに成功しているか判然としない。

自治体に就職を希望する人の多くは公務員になること自体が目的で、公務員として何をしたいのか要領を得ない。公務員になると満足して目的を見失い、組織に埋没していく。それでは組織の厚い壁と闘い、自治を実現しようという志を持った職員は育たない。自治体学会に関心を持つことはない。

自治の夢や情熱を育むことは容易なことではない。その方策を自治体学会で研究する。『まちづくり原論』の教科書を作ることを検討する。教科書づくりは困難な課題であるが、具体的事例、自治の群像といった記述を多くして自治に取り組む勇気がわいてくる内容にしたい。大学で自治体学会がまとめた教科書を使い講義が行われること

を期待したい。公務員予備校での活用も可能性がある。

就職試験では面接が重視されるから、自治の夢や情熱を熱く語るができるなら有利になる。自治体には是非とも就職したいと考える人は熱心かつ集中して学んでくれる。自治体を受験する前に自治への夢や情熱を育み、自治体に就職を果たした後に、その夢を実現するために自治体学会の活動に参加する。そうしたサイクルを確立したい。

## ② まちづくりの知恵に学ぶ

自治体学会会員あるいは自治体学会と志を同じくする自治体職員（OBも含む）で、まちづくりの実績著しい方から講義を受ける。抽象論ではなく、成果を挙げるために、どのような苦労があったのか、その苦労をどの様にして乗り越えたのかなど具体論を期待したい。

講義をもとに成果を上げた要因をグループ討議して、発表する。

多くのロール・モデル（手本・目標となるような存在）を得ることが自治体職員の自己実現を図るために不可欠である。成功した自治体職員を知ることによって地域問題に積極果敢に挑戦する自治体職員を目指す自分の行動がより確かなもの（実現性の高いもの）であると感じられるようになる。

合宿で行う。

参加者の手でまとめ、会員専用サイトにアップする。優れたものは自治体学会叢書といった形でシリーズ化して出版することを検討する。

## ③ まちづくりの思想に学ぶ

我が国を代表する自治・まちづくりの研究者から思想・考え方を学ぶ。研究者から考え方を学ぶにはまとまった時間が必要で、若い時に是非体験すべきである。

1人の先生から10時間程度の集中講義を受ける。

私は30歳を過ぎたころ西尾勝先生を恵庭市に迎えて、5講、10時間の集中講義をしていただいた。その時に自治、まちづくりの基本的な考え方を学び、その後の生き方、活動の土台となる考え方をつくることができた。その体験から自治・まちづくりの基本的な理論を学ぶことは若い時代に必須のことであると考えている。

通学で行う。（会場は首都圏、近畿……）

参加者の手でまとめ、会員専用サイトにアップする。優れたものは出版することを検討する。